

### 3つの定例活動

みなさまの参加を  
お待ちしております



小原本陣の森  
第1日曜日



知足の森  
第1日曜日



相模湖・嵐山の森  
第3日曜日

# News Letter

## NPO法人緑のダム北相模

[midorinodam.jp](http://midorinodam.jp)



No.450-451

イベントが続いた夏休み、若者の森特大号

### 理事長就任のご挨拶

6月開催の総会において役員改選が行われ、石村代表の後を継ぎ、新理事長に就任させて頂くことになりました。当会が立ち上げから20年間にわたり活動を続けているのは、石村黄仁・鸞子様ご夫妻の長年にわたる献身的なご努力によるものと、改めて感謝いたします。

森林ボランティアを取り巻く社会・経済・環境が大きく変化をしている中で緑のダムの活動の理念の「森林破壊という負の遺産を子孫に残してはならない」に基づいて、活動を継続発展させていきたいと思っています。今後とも変わらぬご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。簡単ですが、就任の挨拶とさせていただきます。

川田 浩（本会、理事長）

緑のダム北相模は相模原市内で活動する森林ボランティアです。急がず、無理せず、楽しく、休まず、ポチポチと・・・。



## 【定例活動報告】小原本陣の森

小原本陣の森は、自然体験教室+神奈川県立深沢高校インターンシップとして活動を行った。我々は、8月4日に始まる緑のダム自然体験教室（8/4～5）のスタッフとして参加もしているが、今回の報告は、（8/5～6）の県立深沢高校のインターンシップに集中し報告する。

8月5日午前9:15JR相模湖駅に初面会の学生が現れた。来ない場合もあると学校より連絡があったため若干不安もあったが元気な挨拶で吹き飛んだ。小原集会場に宿泊した学生参加者が朝食を終えた頃、相模湖駅に迎えに行った深沢高校の学生が二人が合流する形で活動を行った。竹ノコギリや鉈を持ち、竹林に出発した。切った竹の使用目的は、昼食の「そうめん流し」用の長い竹と、そうめんを受けるカップ並びに竹箆を各自が作ること。3班に分かれ作業、深沢高校の学生は1班で小原に住む学生チームと合同で作業を行った。竹は3本程倒し、枝を落とし2mに切断した。箆の枝や細い竹は分類し、それぞれ一か所に集めるなどきれいな後始末も忘れずにしていた。切った太い竹を二人で方に掛け集会場まで運び一段落。

「流しそうめん」用のさおを作る担当を任せられ、竹を半分に割り二本を繋げ少しカーブするような感じで組み立てた。水道から5m位ホースで水を流す様に設定し、受け口でバケツとネットで受ける様に工夫をして組み立てた。スタートすると20人の食べ盛りの学生が並ぶと壮観で、下の方にいる人は食にありつけない位上流で掬い取られてしまう。ミニトマトと一緒に流しワイワイと時間が過ぎたころ皆の食欲を満たすことができた。最後のメインイベントは、飴玉状のアイスを流したが、これは相当良かった様であった。最下流まで大きさが保てず溶けてしまうという面白さもあり、今後のイベントにも活用できそうだった。その後、深沢高校の二人と嵐山に行き、3Dスキャナーの使用と活用について見学してもらった。二人ともかなり興味が高く質問が沢山あった。

### インターンシップ生 を受け入れました

小原、嵐山、知足の森と様々な活動に参加し、勉強してもらいました



林業にITを活用し、日本林業を活性化することは社会性もあり、若い学生たちのこれから目指す仕事の領域であるという事に、興味を感じ自分もやってみたいという意見がでた。林業の流通などの実態を話すと、学生たちは第一次産業の特に林業に力を入れることが必要な持論を聞かせてくれたので私も嬉しかった。

翌日6日は定例の小原活動日とダブルわけだが、フォレストクラスの二藤君と斎藤君が萩山で以前伐倒した直径70cm程のスギの大木で木材加工をするので見学した。深沢高校の学生も木材加工に興味を持っていることもあり、真剣に見物をしていた。一番太い木元を輪切りにしてテーブル用に2～3個作った後は、横長のテーブル様に製材するためにアラスカンを使ったプロの技を凝視していた。半分終わったところで次回半分を行うことになり解散した。

深沢高校の学生は長福寺に向かい、間伐体験を行った。知

足の森を整備する学生は普段から慣れており、淡々と作業を行っている。深沢高校の学生は長福寺駐車場下の谷に面した斜面の32cm中のスギを間伐することとし作業を開始した。なかなか切れず50分位掛けやっとのことで倒せたが、この日神奈川県気温32℃と暑く熱中症の危険もあったため枝はチェーンソーで落としたが、材を積むところまでできなかった。深沢高校のサッカー部の生徒は流石体力もあり強い戦力となった。

自然体験教室からインターンシップまで3日間の暑いつらい作業であったが、フォレストノバや地球環境部の皆さんに助けられ無事終了することができました。次のインターンシップは19日20日に5名の学生を迎えることとなりますが、皆様のご協力を宜しくお願い致します。

小林 照夫（本会、理事）

## 【定例活動報告】 知足の森

知足の森では森の入り口の急斜面に念願の階段づくりを行いました。このところ続けて参加して下さっている損保ジャパンの栗田さんが学生時代から階段づくりの経験がおありで、指導してもらいました。完成した階段をみなで何度も登り降りし、なんて歩きやすくなったんだろうとみなで感動。間伐や枝打ちとは違う達成感を感じました。お昼には住職さんにアイスを差し入れていただき、疲れもリセット。午後からはお寺のすぐ下の沢沿いの間伐を続けました。電線、電話線とあるので、本当に慎重に。合宿で練習してきた動滑車も見事にハマって、ほぼ完璧な伐倒。道路に倒してしまったので、総出で速攻片付け、この日の作業を終えました。来月はいよいよ小原側の所有林の境界線調査を行います。

宮村 連理（本会、副理事長）

## 【定例活動報告】 相模湖・嵐山の森

<森林整備班>嵐山定例活動に先立ち、19日は県立深沢高校インターンシップ2回目の初日の土曜日で、松嶋君、飛田君二名の参加。緑のダムからは川田理事長と私が引率した。午前中は林内の活動拠点を見学しながら、嵐山山頂を目指した。あまり風が無く湿度を含んだ暑さであったが順調に進み頂上に到達した。途中、樹木や珍しい木々の説明を聞きながらの登山であった。頂上からは相模湖が一望でき学生から思わず歓声があがった。水分の補給や飴でのどを潤し、少しの休憩のあと下山、足が滑りバランスを崩しながら無事基地に戻り、其々持参した昼食を食べた。午後からは3Dレーザースキャナーで実際基地を測定実践を行った。3Dスキャナー機器の扱い方や、実際スフィア（測定の起点になる丸いボール状の白い球を伸縮赤白ポールの上部に付けたポール）を3本設置して、次々スキャナーの機会点を移動させて測量を行う歩行

### 知足の森

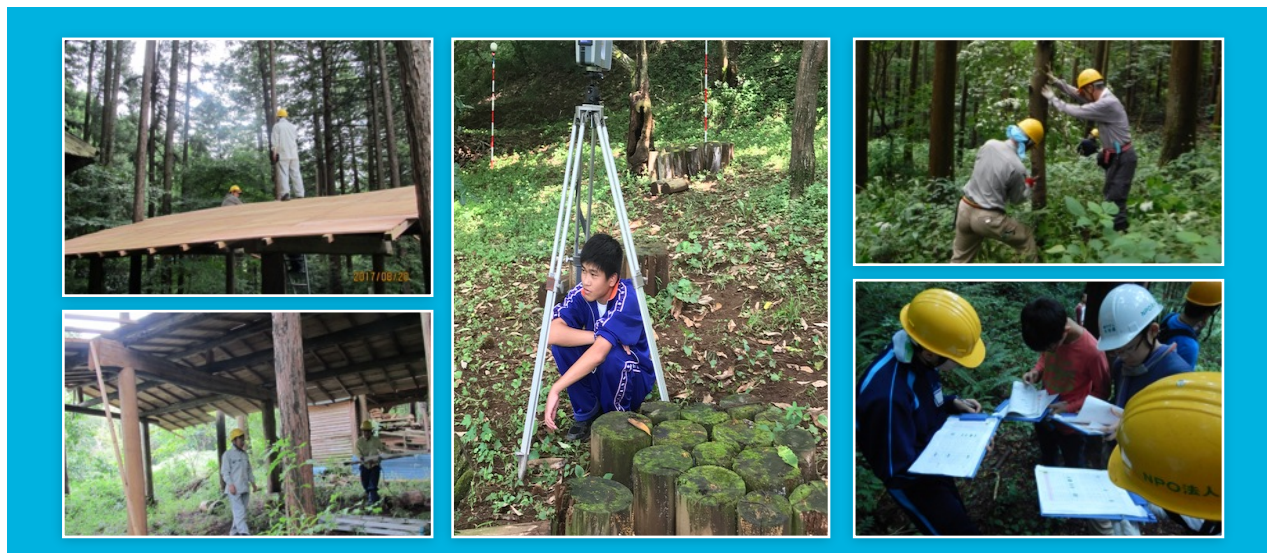
念願？の森の入り口にある急斜面に階段ができました



測量法を学んだ。松嶋君は3Dスキャナーの三脚の中に座り、ここなら映らずに済む絶好の場所だと自慢していた。測量データはMDに収録されたので後日解析することを約束して、本日の測量技術講座を終了した。15:30頃JR相模湖駅で別れたが、鉄道事故があったため列車が相当遅延し自宅到着が夜遅くなっただらしい。

そして緑のダム嵐山定例活動+県立深沢高校インターシップ2回目の二日目の日曜日。昨日の松嶋君、飛田君も連日出席に加え、本日初めて参加の、星名君、金子君、今村君の3名が加わり計5名の所帯になる。今日は、間伐体験を行う。1班は松嶋君、飛田君にフォレストクラスの二藤プロが付き間伐、2班は星名君、金子君、今村君に私小林が付き間伐を開始した。1班の樹木No無し、径22.5cm 樹高15.6m 2班の樹木No102、径37cm 樹高27mの大き木に挑戦したが、伐倒する方向定めを高校生たちが相談して決めた受口、追口の作り方を説明後ノコギリを使って伐り始めた。説明の後交替しながら始めたが午前中は受口ができた段階で昼食になる昼食では汁物が出るので、持参したお弁当を楽しそうに食べていた。松嶋君、飛田君、今村君の3名は食事足りなかったのかコンビニに買い物に出かけたようだ。畑班の石井明夫さんが、畑で採れた野菜（ナス、ジャガイモ、トマト、獅子唐、トウモロコシ）などの夏野菜を持ってきたので皆で分けて持ち帰った。午後から追口を伐り倒したが、受口が小さすぎたため、なかなか自重で倒れず（樹木の傾斜方向と反りが反対方向にあり釣合っていたため）ロープワークで全員が協力して引っ張り倒木に成功した。伐倒目的方向通りに倒れたので、歓声の声が上がった。伐倒した樹の測量を行ったあと、枝払いをし、3mに玉切りを行った。樹の径が大きく4m長では運び出せないため3mとした。玉切りが全部終わらないうちに3時半を過ぎたので基地に戻ったが終礼に間に合わなかったのが気がかりだ。本日の活動で二回に分けた計4日間、8名の深沢高校夏休みインターシップ制度が事故なく無事に終了できた。お手伝い頂いた皆様二藤さん、地球環境部の皆様ありがとうございました。（報告：小林照夫）

<木工班>先月の間伐材置場の屋根工事は、野地板の取付が50%程度まで進んだ。今月は野地板の取付作業の続きである。野地板は120枚入荷したが、全面張りに必要な数量は140枚程度でなので追加手配しているが、まだ入荷していない。野地板作業も慣れてきたので、作業ははかどった。在庫の野地板を全て使ったところで、軒の張出し隅が残ったが、本日は作業終了した。なお、9月の定例活動日の作業準備として、臨時で下記作業[1][2]を追加した。[1]8月25日(金)：野地板を30枚搬入。[2]9月3日(日)：防水シート（1m幅x22m x 4巻）の敷き方と裁断寸法を現場で事前検討。（報告：川田浩）



<フォレストノバ>今回の定例活動は一人での参加だったのでインターンにきていた高校生に同行させてもらった。小原の奴の練習があったため、少し遅刻しての参加だったが、小原の方に嵐山まで送ってもらえたので、予想より早く着くことが出来た到着すると高校生たちがすでに間伐体験を行っていた。間伐されていたのはヒノキで、香しい香りを漂わせていた。私も少し受け口作りを手伝わせてもらったが、だいたい出来上がっていたので少ししかノコギリは使わなかった

昼休みが終わり、倒木に入った。おい口を作りロープで引っ張って倒木させたのだが、受け口と追い口がうまく機能しなかったのか、掛かり木になってしまった。木の修正に時間を取られたが何とか倒すことに成功した後は枝打ちと玉切りを行った。高校生たちの中には、玉切りした木を持ち帰り枕にするという人もいた。また、指導者にヒノキのお風呂について聞いている人もいて、ちゃんと森林について知ろうとしていることが分かった。（報告：望月健一）

<地球環境部>今月は熱中症対策ということもあり、望星の森の毎木調査。これまでデータがかなりそろってきており、また森の姿もイメージできてきたので一区切りつけたいという思いもあり、での調査。8mの樹高を測る逆目盛検測桿を使ってももう足りないトチノキが続出。桜井先生にもご指導いただきながら、データをまとめていきたいと思います。ただ、今年はどこもハチが多く、望星の森は毎年刺されてしまう参加者が出るのでヒヤヒヤの活動日に。ちなみに私は今シーズン2回さされているのでさすがに3回あると注意力散漫と思われてしまうため余計にヒヤヒヤ。調査自体は無事に終え、最後の最後で高校生がハチの巣を発見。見事な大きさにアシナガバチの仲間がブンブンと。興味本位での観察会。なかなかのスリルでした。結果、誰も刺されず無事に終わられてよかったです。（報告：宮村連理）

## 【若者の森づくり】

### 東海大望星高校

電車に心地よく揺られ、ししおどしさながらに頭を揺らしていたため1時間遅れて到着した。外はむしむしとしているが陽射しが雲に遮られているためまだましな暑さだ。山に入るとすでに作業は始まっており、トチノキの樹高と全周を測っていた。トチノキは大半が急な斜面の上であり、地面は少しぬかるんでいて、所々に大小様々な石が転がっている。時々、上の方から「落石！」と声がある。僕は全周を測ることになった。1.5メートルのメジャーを片手にまだたいしてきつくない斜面で数本測ると午前中は終わった。下山して昼食となり雑穀入りの汁物が出された。その雑穀を昔——十年以上前だ——すじが入ったやつと呼び嫌っていたが、汁が染み込みやわらかくなったそれは美味かった。昼食が済み今度は上の急な斜面へと向かった。木から木

へと斜面を移動していき……と、そんな調子でその日は続いていった。まだ、書き残した事——今思い出せるものを挙げるなら、蜂と電話と全周と先生についてだ。——もあるが、最後に、行きの途中で帰ろうという考えに至り、それを途中まで実行に移していたことを反省し終わることにする。

阿部 遼太郎（東海大望星高2年）

## 【若者の森づくり】

### 地球環境部

夏休みということも今月は様々なイベントに参加しました。まず7月下旬からの小菅村での恒例の合宿を行いました。こちらも恒例の源流体験、林業体験に加え、今年から狩猟体験をさせていただきました。源流体験は地元のスタッフの方も今シーズン初めての沢だということで、これからの参加者のための下見だと言われ、なかなかのスリル。しかもこ

のところの長雨で水量が増加。歩いたことがあるコースの高校生でもそこかしこが簡単にはクリアできない難所に。おかげさまでここ数年での大盛り上がり。今年の活動は全活動を360度カメラの動画でまとめていますので本会ウェブサイトぜひご覧下さい。林業体験はいま練習中のチルホールの実習。多くの中高生がチルホールのセット、滑車、ロープの結び（もやい結び）を練習し、宿での夜の講習会の実施も加えて、マスターできたようです。2日目の夕方からは今年から始まった狩猟体験。シカが増えすぎて困っていることは多くの参加者が知っていましたが、実際にワナにかかっているところは初体験。止め刺し、という方法で仕留めたときのシカの鳴き声は初めて聞く鳴き声。迫力ありました。参加者の感想にも「生命」について考えさせられた、というフレーズがよく見られました。その後、専用の施設での解体見学。100キロもある大物。3日目からはくくり罠体験。罠といっても様々な工夫があって、まさにシカと人との知恵競べ。今年も濃い3日間。1日挟んで小原での体験学校に参加（ちなみにつづけて知足の森にもですが）。こちらの報

告はみなさんの報告をご覧下さい。

夏休みを締めくくる活動は地元FMさがみへの出演。今回は学芸大小金井中からメンバーを募りましたので、実際に出演した生徒の感想をご紹介します

## 若者の森づくり

学芸大小金井中も本格的に活動に参加しています



す。その後、学芸大に戻り、積み木イベントの顔合わせ&打ち合わせ。秋からイベントが続きますのでご支援ご指導よろしくお願ひします。

生放送の出演前はラジオでちゃんと喋れるか、意味の伝わりにくいことを言ってしまうかなど心配と緊張があった。そんな中、私たちが話す順番になった。実際に話してみると聞いている人が直接見えないのであまり緊張しなかった。緊張しないことは良かったが、この放送で課題がたくさん見つかったと思う。例えば自然環境について考え実行しなければいけないことが多くあることや、言葉だけで活動をどのように紹介したらいいのか、もっと多くの人に活動を知ってもらうにはどうすればいいか、など課題は山ずみだった。今回のラジオで改めて知ることの出来た課題はこれからの活動だけではなく日々の生活にもつなげることが出来ると思う。なのでこれからはその課題を意識して活動も、日々の生活もしていきたい。（東京学芸大学附属小金井中学2年仲田未希）

宮村 連理（本会、副代表理事）

## 【若者の森づくり】

### Forest Nova

今年も夏の合宿に参加した。間伐体験の手伝いをしたり、小原宿周辺の自然を楽しんだ。まだ中学生くらいなのに間伐体験に参加している人がいて感心した。Forest Nova☆はスタッフとしてお手伝いをしたが、中学生相手になにを伝えたらいいかわからなかった。自然の中で活動して楽しい思いをしてくれれば自然に関心をもってくれるのかもしれない。今回の体験学校が参加してくれた人に良い影響をもたらせばいいと思う。

今回の体験学校で感じた一番の課題はForest Nova☆メンバーの活動目的がそれぞれ明確でないことである。今回のことも

Forest Nova☆が企画内容の決定に関与することはできなかった。このままただのお手伝いだけするクラブでいいのか考えていかなくてはならない。Forest Nova☆は学生団体であり指導者はいない。自分でやることを決めていかないと何をすればいいかわからなくなってしまう。自分からやりたいことを見つけて努力する気持ちが大切になると思う。活動目的を明確に示せないために新入生に不安な思いをさせてしまっている。今は活動の方針を新たに決める時期にある。皆さんには元気がないように見えることがあるようですが、メンバー全員良い活動がしたいという気持ちはあります。具体的な目的をもって楽しく活動できるようになると自分は思っている。とかまあ真面目なことも考えたが流しそうめん、バーベキューも楽しんだのでよかったと思う。来年は途中で帰ってしまった新入生にもいい思いをしてもらいたい。

五味 輝史 (Forest Nova)

今回、第40回松田観光まつりに、小原本陣大名行列のやっこ隊として参加しました。松田観光まつりとは昭和53年に始まり、各地から

色々な大名行列を集めて、それを一度に行うという祭りです。自分は今回初めて小原本陣大名行列に参加しました。はじめは着替えの仕方からなかったのですが、皆さんに

フォレストノバも地元の要請で「出張」しました



教えてもらってなんとか着替えることができました。そこから練習をして本番を迎えました。はじめはやっこ隊の動きも全然わからなくてこれは他の人にも迷惑をかけてしまうかもしれないと思いましたが、皆さんが優しく教えて下さって、最後にはしっかりとやっこ隊の動きをできるようになり、なんとか2kmの道のりを歩ききることができました。このような歴史あるイベントに参加でき、私は大名行列に対する考えの変化などがあり、とても楽しくできました。

山口 拓海 (Forest Nova)

## 【若者の森づくり】 ForestClass

今月の活動は以前に伐採しました100年生の杉をロゴソールというチェーンソーを使用した簡易製材機で製材しました。

本来であれば伐ったり丸太のまま運び出せば良かったのですが、サイズ大きい事もあって山で製材してから製品に加工してくれるモリモノ研に持って行ってもらおうとなりました。実際に製材してみると、作業場所が斜面だという事、自分たちもほぼ初めて使う、またやはり木のサイズが大き過ぎて径が小さい先の部分を数枚しか製材する事が出来ず、最終的には丸太のまま機械を使ってトラックで持って行ってもらう事になりました...なかなか思うように上手くはいかず。しかし、今回を通してロゴソールの使い方やポイントも大体学べたので、今後、自分たちで伐った木を自分たちで製材することも可能になり、活動の幅も広げることができ本当に良かったです。あとは持って行ってもらう杉がどんな素敵な形になって戻ってくるのか、それを山主の永井広紀さんにお渡しできる時を本当に楽しみにして待ちたいと思います。

二藤 政毅 (ForestClass)

【事務局より】

さがみ湖コンシェルジュのイベントを嵐山の森で開催します

9月24日(日)にさがみ湖コンシェルジュが企画する美と健康とおもてなしのワークショップ「森と湖の響き」を開催します。永井朋生さんのパーカッションLIVE、森林体験、発行食のお話と盛りだくさんのイベントとなっています。詳細はFacebookで告知していますのでご覧ください。お申し込みは同会まで。

電子メール：  
kirasagamikocon@docomo.ne.jp



積み木のイベントを開催します

9月23日(土)、24日(日)の2日間で武蔵小金井駅南口宮地楽器ホール内のイベントスペースで積み木イベントを行います。今回は東京学芸大学大学院美術教育専攻の学生が企画、準備し、地球環境部がお手伝いに入ります。みなさまのご来場をお待ちしております。詳細はFacebookで告知していますのでご覧ください。

さがみはら地域づくり大学にて講義します

9月9日のさがみはら地域づくり大学の専門講座、「森林ボランティア講座～さがみはらの自然をまもろう」にて理事長の川田が講演を行います。受付は終了しているのですが空きがあれば参加いただけるのとことです。

詳細についてはユニコムプラザさがみはら(042-701-4370)までお問い合わせ下さい。



参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第3日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人  
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模  
事務局：154-0023 東京都世田谷区若林3-35-9  
発行人：NPO緑のダム北相模 事務局 Tel&Fax 03-3411-1636

支援団体：セブン-イレブン記念財団、22世紀やま・もり再生ネット  
積水ハウスマッチングプログラム、国土緑化推進機構  
賛助団体：北都留森林組合、(株)トレカーサ工事  
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京  
協働団体：神奈川県、相模原市、麻布大学、マルモ出版、  
東京学芸大学環境教育研究センター、  
(社)さがみ湖 森・モノづくり研究所